

**当面（今夏）の需給対策としての緊急課題（府市及び関電管内のイメージ）**

古賀委員提出資料

対象	ピーク需要 上段：大阪府下※1 カッコ内：関電管内	内容			想定する（目標効果）		コスト試算	進捗
		大分類	中分類	小分類	上段：大阪府下※1 カッコ内：関電管内	想定の方		
大口需要家	446万kW※1 (1,088万kW)	ネガワット取引市場			64万kW ~ 84万kW (155万kW) ~ (205万kW) <b>(大口全体の約18.8%)</b>	(242万kW-37万kW：需給調整契約電力) 205×28÷37=155万kW	— —	
小口需要家	457万kW (1,115万kW)	東京都電力対策緊急プログラム同等の対策の展開	・照明照度の見直し ・空調28℃の徹底等々		30万kW ~ 55万kW (74万kW) ~ (134万kW) <b>(小口全体の約12%)</b>	東京都プログラムで昨年18%節電のところ、ソフトな節電で効果10%~15%見込み 1,115万kW×(0.1~0.15)×(2/3~4/5)= 74~134万kW (以下を除く2/3~4/5事業者)	宣伝広告費等410万円  (宣伝広告費等1,000万円)	
		見える化+東京都プログラムの展開	・「見える化」機器の導入を奨励 ・節電実績に基づき関西広域連合で報奨		19万kW ~ 32万kW (47万kW) ~ (79万kW) <b>(小口全体の約7.1%)</b>	見える化（効果13%※3）・TOU的料金体系（効果9.5%※3） 〔1,115万kW-1,115万kW×(1-0.13)×(1-0.095)〕×(1/5~1/3)=47~79万kW (1/5~1/3事業者で導入の場合) ○万個の機器調達が可能か	報奨41万円 (報奨100万円)	
		BEMS	・経産省補助事業のBEMS導入を奨励		10万kW ~ 20万kW (24万kW) ~ (48万kW) <b>(小口全体の約4.3%)</b>	BEMS（見える化（効果13%※3）・TOU&CPP&DL（効果15.5%※3）） 〔平均300kW-300kW×(1-0.13)×(1-0.155)〕×(3,000~6,000件)=24~48万kW (3,000~6,000件導入の場合) アグリゲータの協力が必要	— —	
家庭	321万kW (784万kW)	見える化	・「見える化」機器の導入を奨励 ・市民に外出を促す施策  ・関電実施の節電インセンティブを利用 ・節電実績に基づき関西広域連合で報奨		14万kW ~ 46万kW (34万kW) ~ (113万kW) <b>(家庭全体の約14.4%)</b>	見える化（効果13%※3）・TOU的料金体系（効果9.5%※3） 〔784万kW-784万kW×(1-0.13)×(1-0.095)〕×(1/5~2/3)=34~113万kW (2/3世帯で導入の場合) 270万個の機器調達が可能か	報奨41万円 (報奨100万円)	
合計	1,224万kW (2,987万kW)※2				137万kW※1 ~ 237万kW※1 <b>(334万kW) ~ (579万kW)</b> <b>(需要全体の約19.4%)</b>		492万円  1,200万円	

※1 関西電力全支社のうち大阪北支店と大阪南支店の販売電力量（kWh）の割合として全体の41%を占めていることによる比率按分

※2 第5回会議（平成24年5月10日）需給検証委員会 資料2より

※3 2012年4月17日大阪府市エネルギー戦略会議高橋参与作成資料より数値を利用